

## 会員制情報誌「たのし」に執筆

氏名：西島 幸夫 職業：経営コンサルタント（ISO取得支援） 都道府県：東京都

特使活動の一端として、知り合いの発行する会員制情報誌「たのし」に、故郷いしかわのことを書いています。

最新号の紙面を報告方々お送りいたします。

今回は、今年4月、日本遺産に認定された北前船のことを書きました。

石川の北前船ゆかりの地は沢山ありますので、改めて光を当てる意義を感じています。

掲載された記事はこちらです。



[日本遺産「北前船」.pdf](#)



# 海の男のロマンを運ぶ北前船

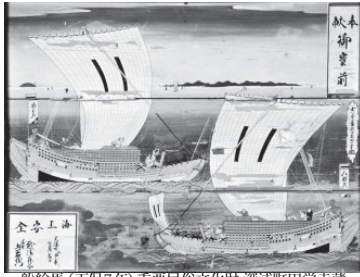
## 加賀橋立能登の福浦・黒島

きたまえふね  
はしたて  
ふくら  
西島 幸夫

北前船の栄華を伝える湊町

請して北前船の歴史・伝統様々な文化財群が評価された。

今年(2017年)4月、北前船のストーリーが「日本遺産」に認定された。タイトルは「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間」北前船寄港地・船主集落」。北前船のネットワークで結ばれていた加賀市(石川県)、函館市・松前町(北海道)、鯉ヶ沢町・深浦町(青森県)、秋田市(秋田県)、酒田市(山形県)、新潟市(新潟県)、敦賀市・南越前町(福井県)の日本海側11市町が連携し共同申



船総馬(天保7年)重要民俗文化財 深浦町円覚寺蔵

数年間、五能線を旅して、北前船の寄港地として栄えた津軽の深浦町を訪ねた。ある古刹で、奉納された「弁財船の絵馬」とともに沢山の「鬮額」を見た。大時代の際に激波にもまれながら船頭・水主達は自らの鬮を切つて船内の神棚に供え、神仏の加護を必死に祈つた。無事生還した海の男たちはお礼参りに鬮を奉納したのだ。困つた時の神頼みではなく、常に心から神仏を信じていたものが多く生還したという。深い信仰心に感銘を受けた。以来、北前船に強い関心を持つようになった。

北前魂で繁栄を極めた海商村

江戸中期から明治にかけて、日本海から荷物を積んでくる廻船(貨物船)を「北前船」と呼んだ。「弁財船」「千石船」ともいう。北前船は商業形態の名称でもある。船主が荷主を兼ねて、各地で商品を売りさばく「買積み」を商法とする廻船だ。大阪

させる資料が展示されていて興味深く観た。同じ橋立に「蔵六園」という北前船主の邸も公開されている。全館紅殻塗りの豪華だ。庭園は北前船で各地から取り寄せた銘石を配して贅を尽くしている。庭で亀にそっくりな石を目にした大聖寺藩主が「蔵六園」と命名した。亀は頭と手足と尾の6つを甲羅の内側へしまい込むので「蔵六」という。橋立は旨い蟹と魚の町なので、旬の季節に再訪して美味しいズワイ蟹を賞味したいと思っている。

### 風待ち湊の腰巻地蔵伝説

能登半島の外浦にある福浦を2度訪ねている。今は小さな漁港にすぎないが、古くは福良津と呼ばれ日本海航路の要衝であった。8〜10世紀には渤海国使節団が来航、大陸と向き合う表玄関だった。近世まで北前船の風待ち湊として栄えた。港に遊郭はつきもして。こんな伝説が伝えられている。岬の断崖の上には、腰巻地蔵と呼ばれる小さな地蔵があった。遊女たちは密かにここへやってきて、海を守る地蔵に赤い腰巻をかぶせて地蔵を怒らせ、海が荒れるのを願うようになった。切ない女心が海を荒れさせて、いとしい男を引き留めたのだ。湊が賑わった時代は過ぎ去り静かな漁港にな



黒島の廻船問屋角海家 北前御殿の付まい 裏手は日本海



北前船の里資料館(1982年開設)

折袴礼、海図、船乗りの衣裳など北前船の航海や生活を彷彿と

中期以降、鉄道と通信の発達で、売り手のうまみが薄れて北前船は急速に衰退した。江戸時代まで曹洞宗大本山だった総持寺が近かったため、廻船問屋は総持寺の御用船の役割も果たした。奥深い半島は北前船で全国各地とつながっていた。北前船は物運ぶだけでなく、文物や唄を通して恋心も運んだことだろう。

(この項おわり)

参考文献「日本海繁盛記」高田宏(岩波新書 1992年1月刊)